

# 教えて!

## 富山 けいざい



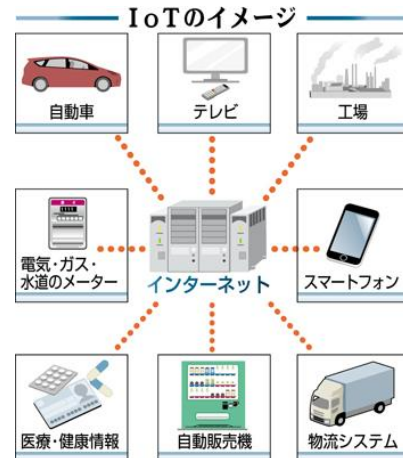
## IoTってなあに？

◆いろいろな情報やりとり

知りたがり屋のブン子さんは、北陸銀行の研究機関「北陸経済研究所」（富山市）の調査研究部担当部長の藤沢和弘さんに聞きました。

Q－最近よく目にするけど、何を意味する言葉かな

A－あらゆるモノがインターネットにつながった状態を言います。通信技術やセンサー技術の進化に伴い、従来のパソコンやスマートフォンだけでなく、家電や自動車、ビル、工場、さらには工場の中のさまざまな機械など多くのモノがネットにつながり、いろいろな情報をリアルタイムでやりとりできるようになりました。離れた場所でも機械の稼働状況が手に取るように把握できます。AI（人工知能）を組み合わせれば、事故や災害の予知、最適な部品交換のタイミングなどが分かるようになります。



Q－最近になって突然出てきた仕組み？

A－欧米では数年前から、日本では昨年あたりから一般的になってきました。コンピューターは1950年代に誕生しこれまで発展してきましたが、その最終形かもしれない。温度や明るさ、紫外線などを感知する小さなセンサーを組み合わせた発信機だと考えてもいいでしょう。

Q－県内ではどんなところに使われているの？

A－電源メーカーのコーセルは、IoTに対応したユニット電源を開発しています。通信機能を搭載し、出力を遠隔操作できるのが特長ですね。でも製品をつくったり、実際に活用しているところはまだこれから。とても応用範囲が広く、今は日本中で新しい活用法をみんなが探している状況です。

Q－使いこなすのはなかなか難しいのね。

A－仕組み自体はシンプルだし、お金も最初はそれほどかかりません。企業は作業現場のアイデアを実現するツールとして取り組むといいでしょう。北陸経済研究所では、今年5月に県内の約30の企業や団体が参加して「IoT活用推進フォーラム」を設立しました。県も「富山県IoT推進コンソーシアム」を9月に発足させ、情報交換や交流に加えて個別相談などを行っていく予定です。

◇ 専門的で難しい経済用語を北日本新聞のマスコットキャラクターの一人、ブン子が質問し、北陸経済研究所の研究者らが分かりやすく解説します。